

科目名	教育基本実習		
担当教員名	山本 悟、狩野 浩二、松岡 敬明、齋藤 忍 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

3年時に通年で1単位の必修科目である。

科目の概要

地域の小学校（特に、新座市、朝霞市、志木市、和光市ほか、東京都東久留米市、清瀬市等）を中心に、小学校での授業支援ほかボランティア活動を行い、学校現場に出て行う実習（学校インターンシップ）である。

学修目標（=到達目標）

年間20日を目安とし、配当学校の実情に合わせて学校インターンシップを行い、学校現場の実態を知り応用実習の心構えを持つ。

内容

年間を通じて配当学校の実情に合わせて 30日を目安に学校インターンシップを行う。その際、2年生とチームを組みリーダーとして運営、連絡を担当する。

評価

配当学校の実情により活動内容が異なるため、実習日誌の記録、および学校からの情報をもとに判断する。

総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された報告書（日誌）にコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】連絡調整の有無。

【事後学修】自習日誌の記録。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦書】必要に応じて指示する。

【参考図書】必要に応じて指示する。

科目名	教育応用実習		
担当教員名	山本 悟、狩野 浩二、中西 郁、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

卒業要件に関わる必修科目である。また小学校の教員免許を取得するためにも必要である。4週間の小学校現場での実習を行う。

科目の概要

4年次の5～6月ごろに、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および東京都などの地域を中心とする）での実習を行う。その際、学生という立場ではあるが、教員の一員としての自覚を持ち、小学生の前に立つことになる。指導教員の授業参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生活指導や学習補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ指導教員からの講和や指導案の作成など教育現場でしかできない学びをする。

学修目標（＝到達目標）

小学校の教員としての自覚を持ち、4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

内容

配属校によって違いがあるが、概ね次のような流れになる。第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長より教務など学校組織における様々な役割に関する講話を受け学びを深めるとともに、配属学級の児童を知り、授業を参観する。第2週以降は配属された学級担任の補助として、積極的に学級指導にかかわる。授業の担当などが示され、準備を進めることになる。第3週も同様な活動を進め、実際に指導案を書き授業を体験する。第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究など授業実践に関わる能力、児童に対する態度などについて、小学校現場で指導に当たった実習校の評価および実習日誌等の評価を加えて総合的に判断する。

【フィードバック】提出された報告書（日誌）にコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】実習のための準備

【事後学修】実習の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)		
担当教員名	齋藤 忍、狩野 浩二、松岡 敬明、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

学修目標(=到達目標)

- ・幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する。
- ・幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける。
- ・幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。

内容

(1) 事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成

保育内容(指導)と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション(園長、実習担当の教職員等による)

(2) 総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は1週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・幼児集団を指導する責任実習(部分・1回)を行う。
- ・実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

保育における教師の役割

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象とする。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（1時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】幼少年教育研究所編 「新版 遊びの指導」 同文書院

全国幼児教育研究協会編 「4歳児の遊びアイデア集」 チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	教職実践演習（幼・小）		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、齋藤 麗子、堀竹 充 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「教職実践演習」は、教職員免許法に定められた必修科目である。教職課程の他の授業科目の履修や学校ボランティア等の様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察する。このことによって、教員になる上で、何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を活用しながら授業を展開し、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組ませる。

学修目標（＝到達目標）

- ・教職の意義や教員の役割、職務内容、子供に対する責務等を理解し、遂行できるようになる。
- ・教員組織における役割分担や教職員が協力して校務運営に携わる方法を理解し、自己発揮する資質を高める。
- ・個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮する手立てを身につける。
- ・教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり等、指導方法の資質を高める。

内容

教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるようワークショップ形式等の実践的な形式で展開する（外部講師の専門的指導も含める）。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高めていく。

1	(1) 教職実践演習のねらいと内容の理解 (2) 教育応用実習での学びと省察	: 山本、狩野
2	新学習指導要領とこれからの学校教育について	: 松岡、堀竹
3	新しい授業づくりとアクティブ・ラーニング	: 富山、日出間、山本
4	授業研究、教材研究、指導法特講（受講者の模擬授業と振り返り）	: 富山
5	授業研究、教材研究、指導法特講（新しい指導法と授業づくりを学ぶ）	: 学外講師、山本
6	教員としてのキャリア教育	: 狩野、山本、綾井
7	保健安全指導について（アレルギー問題、アライキショック）	: 齋藤麗子、山本
8	学校行事と安全指導について（災害、不審者対応、他）	: 日出間、齋藤忍
9	学級経営、生徒指導、保護者対応（地域社会を含む）について	: 堀竹、日出間、松岡
10	教師に求められる資質・能力と教職の再考	: 外部講師、狩野、山本
11	教育の最新事情と学校の実情（総合的学習の時間、特別活動を中心に）	: 日出間、堀竹
12	教育の最新事情と学校の実情（特別支援教育のあり方と最新情報）	: 齋藤忍
13	教育の最新事情と学校の実情（幼小連携及び英語教育を中心に）	: 松岡、綾井、齋藤忍

14	学習指導の評価と評定および授業改善の方策に向けて : 学外講師、狩野、富山
15	まとめ「子供観や教育観などについて、新しい教育情報を踏まえて論述」 : 山本、狩野

評価

授業への参加度(取組、関心意欲、態度) : 40点、教育応用実習の振り返りレポート : 20点、小学校公開研究会参加レポート : 20点、授業のまとめレポート : 20点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前時に事前課題を提示する。課題に関連した資料収集し事前学習を進める(30分)。

【事後学修】毎回の講義記録をノート等に整理する(30分)。課題に指定した小レポートを作成する(1時間)。大学周辺の小学校で開催される公開研究会に参加し、レポートを作成する(2時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新小学校学習指導要領の告示、発行後に詳細を指示する予定。

【推薦書】佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師』(ミネルバ書房)

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。